

保育計画成果報告書

法人名等	愛管株式会社
施設名	れんりの子
報告者（役職）	富田 知可子（園長）
住所・連絡先	静岡県浜松市北区都田町8015-19
	☎ 053-428-3500
	E-mail info@hoikuen-lenri.com

○タイトル（保育計画）

食農保育のはじめの一步

○主な助成備品

- ・配膳台、食器、ガラスの鍋
- ・図鑑、絵本、紙芝居、本棚、パネルシアター、パネルシアターの台
- ・二輪車、スコップ

1. 保育計画策定の目的

れんりの子は6,000坪の同エリアで管工事、レストラン、カフェ、農産物加工工房、農園とともに運営している2021年4月開園の認可保育園です。理念を『保育園に関わる全ての人の心地よい暮らしを、保育園から生まれる好循環で叶えていく』と掲げ、「食農」を保育の中に位置づけ生活体験、自然遊びを通して子ども達の『共に生きる力』を育てています。



大きなシンボルツリーのある自然に恵まれた敷地には「食」「農」に関係したいろいろな職種の大人がいて、食農保育を通して食と関わり食を大切にする心を、自然と関わり自然の中で五感を、遊びと関わりたくましい心とからだを、人と関わり思いやりの心を、培い育ていける環境があります。この恵まれた環境の中で子ども達の興味・関心はどんどん広がり、開園時の私達職員の予想を遥かに超えてきました。そこで、子ども達の「やりたい」という思いを叶えていきたい！という考えから日々の保育のねらいを子どもの姿ベースで立案することに重点をおいて「やりたいことができる保育園」を目指した保育を展開しています。



助成していただいた品々は、子ども達の「やりたい」という思いを叶えるために活用させていただいています。

2. 具体的な実施内容

【配膳台・ガラスの鍋・食器】

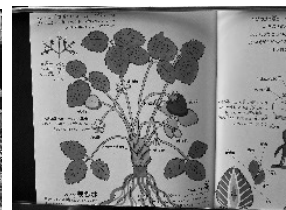
園舎の東側に広がるこどものうえんで、季節の野菜を子ども達と栽培しています。春のスナップエンドウ、グリーンピース、そら豆、玉ねぎ、にんにく、ニラ、じゃがいも、いちごから始まり、夏の梅、トウモロコシ、麦、きゅうり、なす、ピーマン、かぼちゃ、スイカ、枝豆、ブルーベリー、プラム、いちじく、びわ、秋から冬にかけて米、さつまいも、里芋、大根、人参、ブロッコリー、カリフラワー、ほうれん草、白菜…。栽培は大変ですがお楽しみは何と言っても食べること。収穫した野菜や果物をどうやって食べるか、子ども達と職員で相談して決めます。開園当初は、野菜の調理法や味付はもちろんのこと、野菜の種類さえ知らない子ども達に自分達で収穫した野菜等を「どうやって食べる？」と、尋ねても意見が出ることはありませんでした。しかし、クッキングの回を重ねていくうちに、「茹でて食べる」「炒めるのはどう？」「そのままでも食べてみたい」や「塩で食べたい」「味噌もいいんじゃない」「醤油のときは鰹節を混ぜると美味しい」と「作ってみたい」「食べてみたい」



思いがどんどん出てくるようになってきました。その思いを叶える際に活躍したのが、配膳台、食器、ガラスの鍋です。配膳台は給食の配膳時、そして子ども達のクッキング台としても大活躍しています。食器は給食、ガラスの鍋は子ども達が行うクッキングで使用しています。

【絵本、図鑑、子ども用本棚、紙芝居、パネルシアター、パネルシアターの台】

当園は開園してまだ1年目なので、食農保育に取り組んでいるとはいえ、予算的に子ども達に『食』や『農』に関する本や媒体を購入する余裕はありませんでした。助成により子ども達が手軽に絵本や図鑑を手にとれる環境が整い、現在では幼児クラスの子供達は職員と本や図鑑を片手に農園に出かけ野菜作りをしたり、農園で出会った虫や鳥の名前や習性を調べたりしています。本があることで、野菜作りのレポーターや虫や鳥などの生き物への興味が増えました。また、雨の日や本の好きな子ども達は本棚を設置した空間に集まり、自主的に本や図鑑に親しんでいます。乳児クラスの子供達には、『食育』の絵本や紙芝居、パネルシアターで食べる時のマナーや食べることの大切さなどを伝えています。また、保護者にも『食農』に興味・関心をもっていただくために本や図鑑を玄関ホールにも置くようにしました。



【二輪車・スコップ】

子ども達は農園で働くじいじ達が使っている一輪車や鍬やスコップなどの道具に憧れていました。じいじ達の道具は使い方が難しいので、子ども用を購入。届いたその日から、二輪車は子どもの歓声と共に農園を駆け回って仕事をしていました。遊びではなく、仕事です。子ども達は遊びたかったのではなく、じいじ達と仕事がしたかったのです。



3. その成果と評価

【配膳台】

クッキングは以前、子どもの机で行っていましたが、3色に分かれている配膳台をクッキング台として使用することにより切



る、煮るの段取りも考えやすく、動線もよく動きやすいので安全にクッキングできるようになりました。カラフルなところも子ども達に人気です。



【食器】

3歳児以上の幼児クラスはプレートタイプではなく、お茶碗、お椀、大皿、小皿に分けて給食を提供することにより、和食の基本形、一汁三菜を子ども達に伝えています。お茶碗やお椀をしっかり手で持って食べることで姿勢もよくなり、食べこぼしが減りました。また、食材が分かれていることで、それぞれの食材の味を楽しむだけでなく、口の中で混ぜて食べる口内調理で味の変化も楽しめるようになりました。



【ガラスの鍋】

「このお鍋の中でグツグツ煮えているんだよ」と説明しながらのクッキング。グツグツ煮えてる、ってどんな感じ？説明しながらも果たして鍋の中がどうなっているかを子ども達が理解できる言葉で伝えるのは難しいです。しかし、それは子ども達とお米をガラスの鍋で炊いた時に解決しました。グツグツブクブクと泡が上まで来たときは大騒ぎでしたが、



その前後は子ども達も職員も黙ってじっと鍋の中を見つめ、お米のダンスに見とれていました。そして、炊きあがったご飯を食べた瞬間、硬いお米がふっくらとしたご飯になった感動を味わえたと同時に、「グツグツ煮える」が理解できたのだと思います。その後も、ブルーベリーやイチジクが鍋の中でジャムになっていく様を楽しんでいます。

【絵本、図鑑、本棚、紙芝居、パネルシアター、パネルシアターの台】

わからないことや不思議に思ったことをすぐに図鑑や本で調べる習慣がついてきました。年長児は調べたいことがあると、ただページをめくって探すのではなく調べ方も工夫するようになり、索引を利用する姿も見られるようになりました。

ある日、S君が人参に幼虫を見つけ、図鑑で調べ出したのですが「載ってない！」どうするのかと様子を見ていたところ、「人参の本の害虫のところ載ってるかも？」と人参の本で調べ始めました。

『人参』の本に、しっかりと載っていました。どの本にどんなことが載っているのか、わかるくらい読み込んでいる子もいます。「キアゲ



ハの幼虫だって！」それからまた図鑑に戻ってキアゲハの育て方を調べ、園で飼育しました。4匹の幼虫は立派にキアゲハの成虫になって飛んでいきました。本棚のある空間にたくさんの本、このようなじっくり本に親しめる環境は、本の活用の幅を広げ、活動を更に楽しくしてくれます。



【二輪車・スコップ】

石箕で運ぶより重くないし、早く移動できる二輪車。じいじの真似をして足をかけて掘ると一度にたくさんの砂や土がすくえるスコップ。その効率の良さに気づいた子ども達はやる気が増して、職員が頼まなくてもじいじや職員の農作業の手伝いをするようになりました。じいじ達も大喜びです。「この子たち2人で大



人1人分の仕事をしてくれる。助かる、助かる。」「それに一緒に働くと楽しくて、腰の痛いのも忘れるよ。」逆に子ども達の砂場でじいじがじいじのスコップを使って遊んでくれることもあります。その時は砂場に富士山が出現します。



4. 今後の課題と展望

いただいた品々により、子ども達の興味・関心も増え、活動が広がりました。ただ、年齢にもよりますが、中には食農活動に興味・関心が薄い子もいます。農園で虫を発見して図鑑を見に行く子、じいじと楽しく一輪車を押して仕事をしている子、自分で収穫をした野菜をガラス鍋で調理して美味しそうに食べている子、そんなお兄さんやお姉さん、友だちの影響を受け、れんりの全ての子どもが「やりたい」ことを見出し、生き生きと活動できるよう今後も私たち職員が率先して楽しい食育活動に取り組んでいきたいと思えます。

この度は助成をいただき、ありがとうございました。大切にしていきます。

以上